

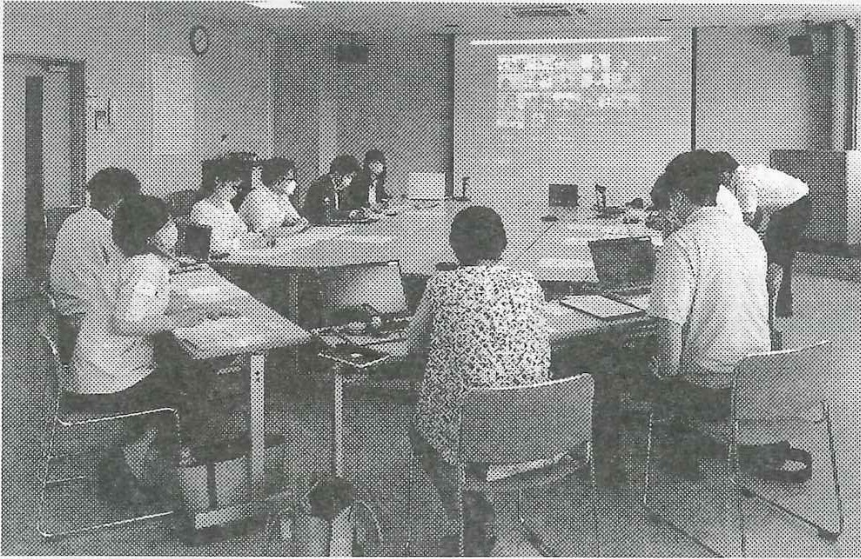
信大

繊維学部  
ARECで東信州採用戦略会議

オンラインも含め40人が参加

東信州次世代産業振興協の主催

東信州採用戦略会議 (インターンシップ編)



コロナ禍のインターンシップについて情報交換した

は11日、信州大学繊維学部キャンパス内のAREC会議室で開催。オンライン参加も含め、企業の採用担当者や大学の進路・キャリアセンター担当者、職業安定協会、自治体関係者など約40人が参加した。

東信州次世代産業振興協会議会(上田市、小諸市、佐久市、千曲市、東御市、御代田町、立科町、長和町、青木村、坂城町)の主催。

コロナ禍で就職活動のオンライン化が進み、インターンシップもオンライン化するなど、企業も学生も採用・就職活動の改革の時を迎えていることから、地元企業の採用担当者同士の情報交換・意見交換を目的に開いたもので、各企業の良い事例などを学び合った。

この日の参加企業は、リアル開催とオンライン開催で行っているインターンシップの実施状況や悩みなどを報告。「インターンシップで若手社員との座談会を設けており、会社の雰囲気や仕事内容などを把握していただけのようにしている」など、

それぞれ実施状況を説明。

また「インターンシップの受け入れ自体が少ない」「オンラインのインターンシップを実施したことがない」という企業も、「今後、オンラインインターンシップを導入したい。各社の実施内容をうかがいながら参考にさせていただきたい」などと、他社の実施内容に熱心に耳を傾けていた。

さらに参加した大学側関係者も、学生の思いや傾向などを報告。神奈川工科大学担当者は「地方のインターンシップに参加したい学生は一定数いる。単位認定型のインターンシップを行っており、昨年度受け入れ企業131社で参加学生は延べ195人。1学年の約2割が参加した」などと報告している。

岐阜協立大学担当者は「インターンシップで何を体験したいのか学生に聞いてみると、会社の雰囲気が一番知りたいといっている。ぜひ学生に近い若手社員と話す機会を作っていたら」と、そういう雰囲気も伝わるので「はいか」など、それぞれ状況を伝えて参加者全員で企業の採用力向上に向け、意見交換をした。